



CONTENTS

* JST事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（調査分析）」採択

* カモミール月曆

* 女性のための起業講座

* 研究倫理研修

* 意識啓発セミナー

* HeForSheセミナー

JST事業

令和2年度科学技術人材育成費補助事業

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（調査分析）」採択

この度、令和2年度 科学技術人材育成費補助事業（JST）「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（調査分析）」に名古屋大学が代表機関として申請した研究課題『女性研究者の「水漏れパイプ」解消に資する取組の国際比較』が採択されました（共同実施機関：岐阜大学、国立女性教育会館）。

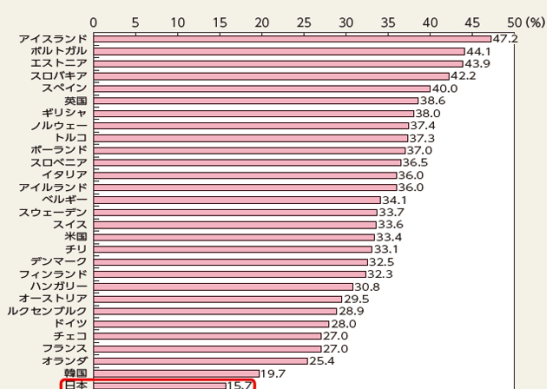
本事業は、「女性研究者の活躍促進のための方策の検討に資する海外の取組事例の調査・分析」を対象とするもので、実施期間は2年間（2020・2021年度）です。

日本における大学（学部）進学率（平成29年度）は男子55.9%に対して女子49.1%（「男女共同参画白書平成30年版」）と男女格差は縮小傾向にあるものの、女性研究者比率は依然として先進諸国のなかで極めて低い状況にあり（下図参照）、この課題解決に向けた成果が期待されています。

今年度、岐阜大学は「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」『地域循環型女性研究者育成・支援プログラム 清流の国 輝くギフジョ支援プロジェクト』（代表機関：岐阜大学、共同実施機関：岐阜薬科大学、岐阜女子大学、アピ株式会社、実施期間：2015年度～2020年度）の最終年度を迎えていますが、併せて、今年度あらたにスタートする調査分析事業にも果敢に臨んでまいります。

本事業の遂行にあたり、男女共同参画推進室員をはじめ岐阜大学構成員の皆様からのご支援・ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

1-5-7図 研究者に占める女性の割合の国際比較



(備考) 1. 総務省「科学技術研究調査」（平成29年）、OECD「Main Science and Technology Indicators」、米国立科学財団（National Science Foundation: NSF）「Science and Engineering Indicators 2018」より作成。
2. 日本の数値は、2017（平成29）年3月31日現在の値。チリ、アイスランド、韓国は2016（平成28）年値、その他の国は、2015（平成27）年値、推定値及び暫定値を含む。
3. 米国の数値は、雇用されている科学者（Scientists）における女性の割合（人文科学の一部及び社会科学を含む）、技術者（Engineers）を含んだ場合、全体に占める女性科学者・技術者の割合は28.4%。

男女共同参画局「男女共同参画白書（概要版）平成30年版」
http://www.gender.go.jp/about/danjo/whitepaper/h30/gaiyou/html/honpen/b1_s05.html (2020/10/22アクセス)

カモミール月暦 (室長からのメッセージ)



副学長（多様性・人権・図書館担当） 林 正子

全学共通教育「ワーク・ライフ・バランス（男女共同参画論）」

「かもみーる通信」第121号（2020年9月）でご案内した今学期の全学共通教育（水曜・1限）「ワーク・ライフ・バランス（男女共同参画論）」（コーディネーター：男女共同参画推進室 落合絵美 特任教員）の第2回「岐阜大学における男女共同参画推進の取り組み」（10/14）を担当しました。

今年度も定員100名の受講生を5学部から迎え、Ⅰ. 男女共同参画社会基本法、Ⅱ. 日本の現状、Ⅲ. 国の施策、Ⅳ. 岐阜大学の現状、Ⅴ. 岐阜大学の取り組み、Ⅵ. 学生参加の男女共同参画推進の構成で講義をおこないました。

受講生の意識調査の趣旨でおこなった「小レポート」で、「岐阜大学における男女共同参画の推進に向けて、今後、講義・講演会やセミナーで取り上げて欲しい話題」を尋ねたところ、複数の受講生から次のような回答が寄せられました。

- 海外の男女共同参画推進のための先進的な取り組み
- スウェーデンなど男女共同参画が進んでいる国の施策
- 育児期の女性の就業率が高い国での両立支援制度
- 男性の視点からの男女共同参画推進の取り組み
- 男女共同参画推進に取り組む学生の自主的な活動
- LGBTQ とくに同性愛者への差別の実態

他にも、

- ◆ ライフイベントに応じた具体的な支援（制度）の内容を紹介してほしい
- ◆ 第一線で活躍している女性研究者、研究中断から復帰した経験のある女性研究者の講演を聴きたい
- ◆ これからの人生設計をおこなううえで、経験者の話を聴いたり、相談できる機会があればとてもありがたい

という要望や、中には、「女性は大学院で学ぶ必要はないという昔ながらの考えをもつ親や大人を対象とした講義をしてほしい」という声も寄せられました。

1年生が8割近くを占める受講生の皆さんが、すでに自分自身の卒業後の進路を真剣に考えていることは、「今後（在学中および卒業後）の自分の人生設計と「男女共同参画」がどのように関連するか」という設問への回答からもうかがえます。

- ワーク・ライフ・バランスに配慮し、制度の整っている会社を就職先として選択する
- 自分の能力を思う存分発揮することのできる環境がととのっているかどうかを確認してから入社する
- 男性（夫）が家事や育児にかかわれる支援制度の整備された会社に就職する

というように、自身の将来に自覚的で、卒業後の就職や結婚生活について明確なイメージを表現する回答が数多く寄せられました。

また、

- 職場のいろいろな企画に女性が参加することによって、男性だけでは出てこない発想が生まれる
- 男女共同参画は男性による理解や変革が必要で、男性全員の意識改革によって新たな局面を迎える
- 女性を重視した男女共同参画だけでなく、男性を対象とする男女共同参画推進も重要な課題である

などの意見が男子学生から続々と寄せられたことにも隔世の感を覚えました。

さらに、

「工学部の先生や学生は男性が圧倒的に多いが、研究活動において男性の視点だけでは思い浮かばないようなアイデアを女子のおかげで得られるかもしれない。今後は工学系の研究に女性がもっと関与できるような条件や環境を成立させ、男性と女性が対等に意見交換し活躍することによって工学分野はより発展していくと思う。」（工学部男性）

「私は教育学部の家政教育講座に所属しており、家庭科の授業ではワーク・ライフ・バランスのライフにカテゴライズされる「家庭内」について取り上げることが多いため、子どもたちの意識改革をすることができるのではないと思う。将来私が担当する授業で、「家事は女性がするものだ」という固定概念を払拭し、男女が分担しておこなうものであることを子どもたちに伝えていけるようにしたい。」（教育学部女性）

という意欲的で頼もしい回答も寄せられました。

自分自身の将来を真剣に考える受講生からは、「男女共同参画推進に関する授業は、学生の意識改革を進めるために必修科目にするべきである」という意見も提示され、前掲「講義・講演会やセミナーで取り上げて欲しい話題」への対応も含め、今後の「ワーク・ライフ・バランス（男女共同参画論）」の授業や講演会などの企画に活かしてゆきたいと願っています。

女性のための起業講座

10月中旬、岐阜県主催「女性のための起業講座」（初級編）の飛騨会場（10/16）および岐阜会場（10/17）にオブザーバーとして参加しました（主催：岐阜県、共催：岐阜市・高山市・多治見市）。

「女性のための起業講座」は昨年度から開催されており、今年度が2年目の開催となります。今年度は「岐阜県内のより多くの女性に受講機会を提供したい」との趣旨から、実施会場を昨年度の1か所（岐阜会場）から3か所（飛騨会場、東濃会場、岐阜会場）に増やして開催しましたが、どの会場でも多くの申込があり、とりわけ岐阜会場では定員を大きく上回る申込が寄せられたそうです。

初級編は全2回（前半・後半）で構成されており、私の参加した第2回（後半）では、冒頭で講師の豊増さくらさん（中小企業診断士 トヨマス・マネジメン

トオフィス代表）が前回（第1回）の講座内容について振り返り（各種手続きや起業に際して必要な資金などの説明）をおこなったあと、長期的に事業を継続させるにあたって重要なポイント（心構え等）や確定申告の方法、起業の成功例・失敗例などについてクイズ形式も取り入れながら2時間にわたって講義されました。

今回は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から参加者同士の交流会ができませんでしたが、私の参加した高山会場および岐阜会場に集まった女性たちは、講師による具体的かつ実用的なお話に熱心に耳を傾けていました。

本講座では無料の託児サービスも用意されており、育児中の女性たちが参加しやすい工夫がなされています。講師の実体験に根差した講義内容、そして幅広い世代からなる受講生の熱心な受講姿勢を通して、「もうひとつの働き方」としての起業の注目度の高さを改めて実感しました。（落合絵美）



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

研究倫理研修ご報告

10月22日、アピ株式会社主催「研究倫理研修」が開催されました。講師の塚田 敬義 教授（岐阜大学大学院 医学系研究科 医学系倫理・社会医学分野）から『求められる研究倫理～医学系研究の視点から～』と題して、約1時間半にわたって講演がありました。

最初に、ヒトゲノム・遺伝子解析研究を例にして、人からの情報や試料の提供に依存するため倫理的・法的・社会的問題を招く可能性があること、提供者個人の人権保障が科学的・社会的利益よりも優先されることを確認したあと、倫理的妥当性および科学的合理性の確保が研究者の責務とされていること、そして倫理審査委員会の成立要件や研究計画の倫理的妥当性および科学的合理性についての審査が役割であるとの説明がありました。

続いて、臨床研究に関する不適正事案について、ディオバン事件をはじめ最近の事例も取り上げながら研究における手続きの重要性について指摘がありました。そのうえで、研究の質を確保するために遡って検証可能である必要があること、また指針等はGCP省令の原則である行為の手順化、データの真正性、データの保存性が参考にされており、原則から逸脱した研究は逸脱とする制度設計になっていると述べられました。

最後に、記録の作成・保管方法等の記載例および利益相反ガイドラインならびに近々予定されている新しい国の指針の要点の紹介がありました。質疑応答では会場から具体的な事例に関する質問が相次ぎ、充実した研修会となりました。（落合絵美）



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

（アピ株式会社）

意識啓発セミナー

オンライン開催（Zoom）

Click ↓

申込締切
11/12(木)

介護は一人でするものではない
～仕事と介護の両立はできる～

講師：入学 佳宏（にゅうがく よしひろ）氏

日時：11月24日（火）13:30～14:30

対象：アピ株式会社・岐阜大学・岐阜薬科大学・
岐阜女子大学の全構成員



参加お申込み：岐阜大学男女共同参画推進室 内線：3397 E-mail：sankaku@gifu-u.ac.jp

参加無料

HeForSheセミナー

オンライン開催（Zoom）

日本を代表するコンテンポラリーダンスのカンパニーである「コンドルズ」をゲストスピーカーにお迎えし、舞台芸術・演出を通じたジェンダー平等（SDGsゴール5）の在り方・役割や、HeForSheのコンセプトである「男性と男子たち」がジェンダー平等の達成に向けた変革の主体となって行動していくこと、アートとアーティストたちの役割と可能性について考えるセミナーです。

Click ↓

男性ダンス集団「コンドルズ」が目指す
多様性とジェンダー

ゲストスピーカー：コンドルズ

日時：11月27日（金）16:30～18:00

★ どなたでもご参加いただけます。



参加お申込み：以下の受付フォームからお申し込みください。

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/52539598683244>

主催：東海国立大学機構

（名古屋大学男女共同参画センター）



岐阜大学男女共同参画推進室（管理部人事労務課（男女共同参画推進事務局）） URL：https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 TEL：058-293-3397 FAX：058-293-3396 E-mail：sankaku@gifu-u.ac.jp

*男女共同参画に関するご意見・ご要望は、男女共同参画推進室にお願いします。